

1 国語科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

- ・指導事項に示されている力を身に付けさせるための言語活動を意識する。
- ・国語は積み上げの教科。各学年で何をどこまで身に付けさせるのかを確認する。
- ・「一時間を何もしないでやり過ごす生徒」を作らない言語活動の在り方を工夫する。



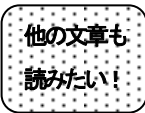
(1) 話すこと・聞くこと

指導事項	説明	指導上の留意点
話題設定や取材	何について話したり話し合ったりするのかを決め、必要な材料を集める指導事項。	課題解決的な言語活動との関連を意識。
話すこと (話の準備・話す)	話をする前の準備段階の指導事項と実際に声に出して話をする際の指導事項。	「書くこと」の指導との違いを明確に。
聞くこと	聞くことに焦点を当てた指導事項。	単に聞くだけでなく＜聞く＋能動的な内容＞を意識。
話し合うこと	話す能力・聞く能力を総合的に発揮する指導事項。	実際の話合いの中で以下のことを自覚し、実践できるように。 ・話し合うことの意義 ・話合いの目的（ゴール） ・話合いの種類や方法 ・話合いへの参加の仕方 ・話合いの進行

(2) 書くこと

指導事項	説明	指導上の留意点
話題設定や取材	各課題を決め、材料を集めながら自分の考えを形成する指導事項。	課題解決的な言語活動との関連を意識。
記述	読み手を意識して、伝えたい内容を適切に記述する指導事項。	根拠を明確にして書くことを繰り返し指導。
交流	書いた文章を読み合い、自分の表現に役立てるとともに、考えを広げたり深めたりする指導事項。	観点を決めた交流を。

(3) 読むこと

指導事項	説明	指導上の留意点
文章の解釈 (説明的な文章・文学的な文章)	文章の内容を理解し意味付ける指導事項。	第2学年、第3学年では説明的な文章、文学的な文章を合わせて示している。 
自分の考えの形成 (形式について・内容について)	形式（表現の仕方）について考えを持つ指導事項と、内容について考えをもつ指導事項。	自分はどう思うのか なぜそう思うのか を明らかにさせる。 
読書と情報活用	国語科における読書指導の内容を明記。	教材文だけでなく、幅広い読書や情報活用につなげる授業を。 

## 2 読書につながる授業づくりの推進

- ・国や地方公共団体の指針を受け、改めて学習指導要領における読書推進の位置付けを共通理解し、学校教育の使命を確認する。
- ・これまでの読書推進の取組は不読率の高い中学生や高校生に効果的な取組であったと言えるかを見直し、具体的に中高生の読書推進の手立てを考える。(学校全体として+国語科として。)

### (1) 読書推進の拠りどころとなるもの

「第2期教育振興基本計画（H25.6.14） 基本施策 11-2」より

「子どもの読書活動の推進に関する計画」等に基づいた、全校一斉の読書活動や公立図書館と学校の連携の推進、子どもの読書活動の重要性などに関する普及啓発等を通じた子どもの読書活動を推進する。

「第3次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（H25.5）」より

- ・各教科等を通じて言語活動の充実を図ることとし、言語に関する能力の育成に必要な読書活動を充実すること。
- ・今後10年間で不読率を半減させることを目標に、おおむね5年後に、小学生は3%以下、中学生は12%以下、高校生は40%以下とすることを旨とする。

→数値目標を掲げたことが3次計画の特徴。

### (2) 読書につながる国語科「読むこと」の授業づくり

- ・「学力が低いから文章の解釈までしか指導しない」という考え方では不十分である。言語活動を工夫し、「自分の考え」をもたせる授業を構想する。

### (3) 指導事項「読書と情報活用」の扱い

- ・必ずしも単元の最後に行うべきものではない。単元の最初に関心・意欲の喚起を目的に読書させたり、関連した図書の並行読書をさせたりという工夫が必要である。

## 3 新しい学習評価との関連

- ・目標に準拠した評価を行い、授業の改善とともに、生徒の学習状況やつまづきを把握し、手立てを講じる。
- ・評価場面をしばり、重点を決めて指導・評価する。

## 4 書写の時数確保

- ・学習指導要領の示す内容及び時数を確実に実施する。(1.2学年は20時間程度、3学年は10時間程度。計画段階でこれを下回ることがないようにする。)
- ・毛筆による書写の学習を全ての学年で確実に行う。

